

一般社団法人 日本助産学会ニュースレター



第30回日本助産学会学術集会のご案内(第2報)

助産学の今、そして未来へ ～最善・最新の助産学構築に向けて～

第30回日本助産学会学術集会会長 我部山 キヨ子
(京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻教授)

第30回日本助産学会学術集会は、メインテーマを「助産学の今、そして未来へ」～最善・最新の助産学構築に向けて～とし、**2016年3月18日(金)にプレコングレス、2016年3月19日(土)・20日(日)に学術集会を、**京都大学百周年時計台記念館・国際科学イノベーション棟で開催致します。1987年3月15日第1回学術集会の開催以来、はや30年が経過し、今回は**第30周年記念大会**となります。

この間、わが国では急速に少子化が進行し、家族規模の縮小化と養育機能の低下、従来の枠を超えた多彩な家族の出現、高度生殖補助医療は日常の医療として定着する一方で、ハイリスク妊娠や児童虐待の激増など、母子を取り巻く環境は激変し、複雑かつ厳しさを増しています。このような中であって、周産期医療、少子化対策や子育て支援対策の最前線で働く助産師の役割は、極めて重要となっています。

第30周年にあたる本学術集会では、これまでの助産学教育・実践・研究の集大成を行い、最善・最新の助産学構築のために、今後どのようなビジョンをもち、どのような方向性に進めばよいのかを広く英知を結集して、議論したいと考えています。**助産を取り巻く最新事情と課題**などに対して、**特別講演、招請講演、教育講演、市民公開講座、シンポジウム、ワークショップ、交流会**など多彩な企画を通して、行政・教育・臨床・関連領域などの最前線でご活躍の先生方に講演頂き、近未来の助産学の在り方や方向性を参加者とともに考え、分析・検証していきます。また、グローバル社会の中でわが国の助産学の動向を見定め、更なる発展に導くために、世界やアジアの助産学の動向に関するテーマも用意し、30周年にふさわしい多彩で充実したプログラムとなっております。プログラムの詳細やお知らせは、学会ホームページ

(<http://cscenter.co.jp/jam30/>)に随時掲載・更新しております。

さらに、新企画として“**StudentMidwife.Café**”を開催します。日本全国から多くの助産師教育機関の学生が集い、ポスター展示・発表を通して、新時代の助産学を語り合う企画です。加えて、会員の皆様の貴重な研究の成果である**一般演題は、過去最大数の227題**に及び、いずれも現在の助産の現状や課題を反映した興味深いテーマとなっていますので、皆様の日頃の実践に役立つ議論が展開されるものと期待しております。

そして、今回は30周年をお祝いし、参加者の皆様に京都の文化の一端に触れて頂けるように、**記念式典**では我が国の古典文化のひとつである**狂言(茂山千五郎家の「鬼瓦」)**などを行います。また、祝賀会でも楽しい企画を用意しておりますので、こちらにも是非ともご参加頂ければ幸いです。

会場となる京都大学は、下鴨神社、京都御所、平安神宮、銀閣寺など世界文化遺産に囲まれております。閑静な京都大学構内も、ぜひとも見学・散策をして頂ければと思います。一方、世界観光都市ランキング格付けで京都は2年連続1位となり、外国の旅行者が極めて多く、個人ではホテルなどが非常にとりにくくなっております。もし、個人で宿泊場所が確保できない場合には、学会の旅行者または皆様の地元の旅行者を通して頂ければと存じます。

多くの会員の皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

第30回日本助産学会学術集会 ～30周年記念行事～

日時：2016年3月19日（土）

- 招聘講演：Bridget Lynch 元ICM会長
「世界の助産師教育・業務の動向と今後の展望」

日本助産学会30周年記念講演の演者として前ICM会長のBridget Lynch氏 (McMaster University, Canada) をお招きすることになりました。講演タイトルは、"Midwifery in the 21st Century: Achieving Our Vision"で、これからの助産のビジョンについてお話いただきます。次回のICMは、カナダのトロントで行われます。ICMアジア太平洋会議から引き続き、日本の助産を世界的な視野から考える貴重な機会となります。会員の皆様、是非、ご参加ください。
日本助産学会 副理事長 片岡弥恵子

- 記念シンポジウム 「近未来の母子保健の発展のために」プログラム参照
- 記念式典 プログラム参照

上演：狂言 茂山千五郎家「鬼瓦」

狂言とは、室町時代に『能』とともに形成された滑稽な芝居です。『狂言』は喜劇的なセリフ劇です。“古典芸能”というだけで何となく難しい物だと誤解されがちですが、『狂言』は観て・笑って楽しむものなので、難解なものではありません。まるでサーカスの道化師のような役割を担ってきた芸能なのです。

また『狂言』が笑いの題材としているのは、生活の中の失敗談であったり、夫婦喧嘩を笑ってみたりと、現代でも変らないものが笑いのテーマになっています。昔から伝わる普遍的な笑いの芸能が『狂言』です。



鬼瓦（おにがわら）曲名解説

裁判のため、長期に渡り京都に単身赴任の遠国の大名が、訴訟に勝ち、そのお礼お別れのため、五条の因幡堂のお薬師如来に太郎冠者を連れ立って参詣します。

今回の勝訴も、このお薬師如来のお蔭と感謝し、国許へ帰ってこの御堂を移し安置することにしました。二人は、姿の良い御堂の隅々を見てまわります。ふと、大屋根を見ると厳めしい鬼瓦が、目にとまりました。ところが、どうも大名には国許に残した女房の面にソックリに見えるのでした。

鬼瓦が妻とそっくりだと言いつつも、妻を思い出し早く会いたいと、大泣きをする大名が、なんとも狂言的で、小品ながら演者にとっては、無類の難曲とされています。

室町時代の“新喜劇”ともいわれている『狂言』です。今回は、30周年記念に合った楽しい演目をしていただきます。ぜひ“御笑納”ください。

- 祝賀会

祝賀会会場： 京都大学医学部創立百周年記念施設「芝欄会館」
京都大学アカペラサークル Crazy Clef “東雲”

第30回日本助産学会学術集会でお待ちしております。

「CLOCMiP 制度の概要および初年度「レベルⅢ」認証始まる！」

日本助産評価機構 理事長 堀内成子

2015年8月、クリニカルラダー認証制度(クロックミップ CLOCMiP: Clinical Ladder of Competencies for Midwifery Practice)の申請がスタートした。これは、助産実践能力が一定の水準、つまり助産実践能力習熟段階クリニカルラダーレベルⅢに達していることを、全国で統一した方法で審査し、認証する制度である。その目的として、妊産褥婦や新生児に対して良質で安全な助産とケアを提供できること、次いで、この制度により助産師が継続的に自己啓発を行い、専門的能力を高める機会をもつこと、そして、社会や組織が助産師の実践能力を客観視できることを目指している。

日本助産評価機構(以下、当機構)は、助産教育及び助産実践の質の向上を図り、社会における助産ケアの質がより一層向上し、ひいては母子保健・福祉の向上に寄与することを目的として設立した。当機構は公益社団法人日本助産師会、公益社団法人全国助産師教育協議会、一般社団法人日本助産学会の3団体の発起により2007年に設立し、2014年11月一般財団法人に組織変更をし、支持母体として公益社団法人日本看護協会が加わった。主な事業として、専門職大学院をはじめとする助産師養成教育機関、および助産所の適格認定等の第三者評価を行っている。

レベルⅢを認証された助産師は、「自律して助産ケアを提供できる助産師」として、公表することができ、「アドバンス助産師

(Advanced Midwife)」と称される。認証には、書類審査と客観的試験を合格することが必要である。書類審査の申請要件として、11項目の到達条件を示した。また、組織にとって助

産ケアの質を保証するため勤務する施設内での相互認証として、自己評価、他者評価、上司の総合評価を行い「B」以上であれば、最終的に施設長または看護部長の署名・捺印を得て申請が可能としている。さらにステップアップ研修として、助産師のコアコンピテンシーである倫理や教育などの研修を義務付けている。初年度である本年度は、5723人の申請を受けた。予想以上の申請者数に各助産師の並々ならない意欲を感じ、当機構としても襟を正して審査に望んだ。審査基準を満たした5,565人が客観的試験へと進んだ。

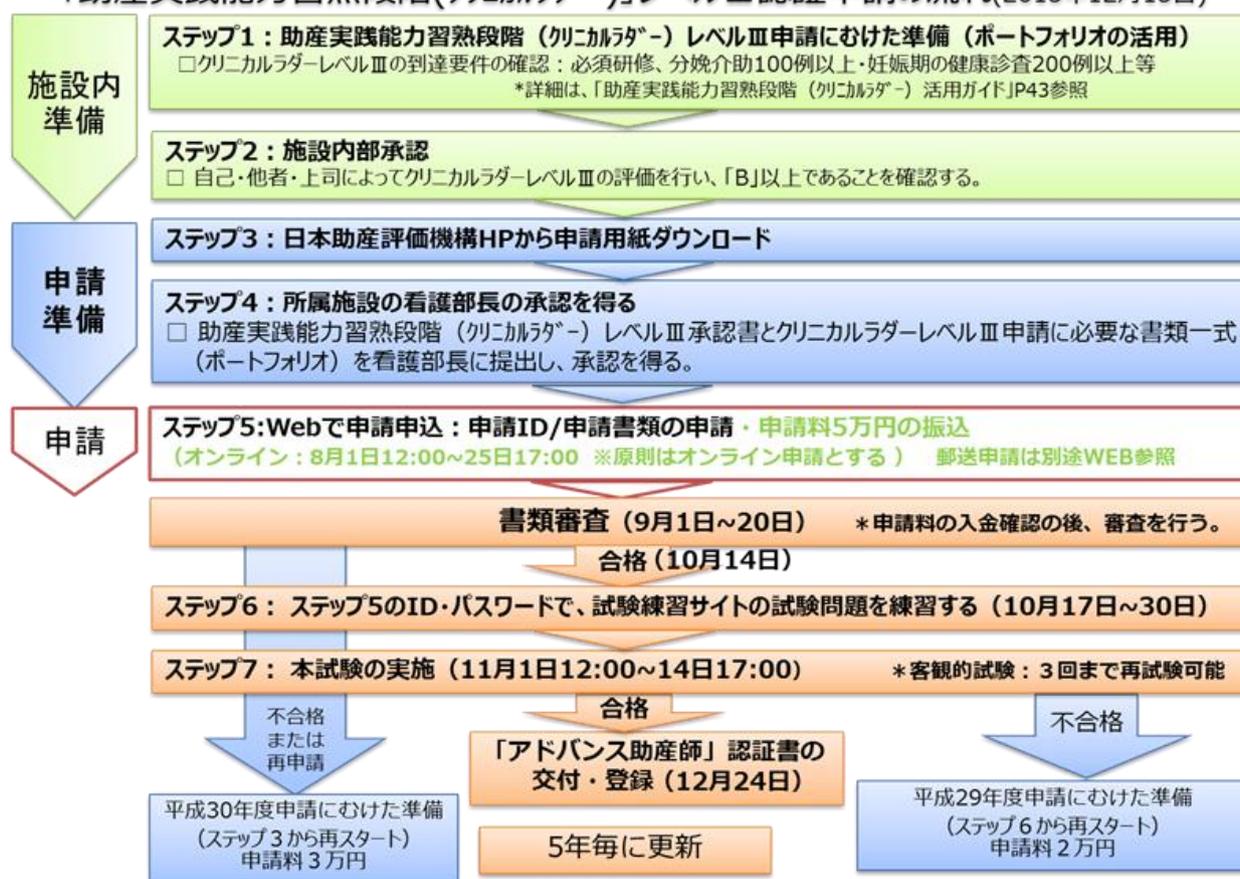
続いて、完全WEB製の客観的試験である。この試験の目的は、妊産褥婦と新生児が安全で安心な分娩を行うことのできる知識を申請者が備えていることを確認するものである。実践上の基本的知識である30問に対し、60%以上の回答率をもって合格と定めた。99.3%が1回目の試験で合格し、2回目ですべての受験者が合格した。

この認証制度は5年毎の更新制であり、助産師は自己の知識や技術をブラッシュアップすることから助産実践能力の維持・向上につながり、より一層助産師の専門性を高めることに繋がる。次年度は、図に示すとおり、本年度と同様のプロセスを予定している。2017年度は、見直しを図るため1年間申請休止し、2018年度から再び開始予定である。

(図は次ページ)

「助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)レベルⅢ認証申請の流れ

「助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)」レベルⅢ認証申請の流れ(2015年12月15日)



ICM 募金の御礼と継続支援のお願い

一般社団法人日本助産学会事務局

ICM 支援のための募金を常時受付けております。

引き続きのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

☆ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金)☆

発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。

一口 2,000円

振替口座番号:00190-8-710931

加入者名:日本助産学会国際基金

☆ ICMセーフマザーフード基金 ☆

世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における助産知識の発展を支援する募金です。

一口 1,000円

振替口座番号:00240-8-6818

加入者名:日本助産学会ICMセーフマザーフード基金

事務局からのお知らせ

一般社団法人日本助産学会事務局

今年度平成27年度会費(10,000円)納入について

本学会は、皆様の会費をもとに運営しております。円滑な事業推進のため、会費納入がまだお済でない方は早急に下記まで、氏名・会員番号等を通知の上、お振込みをお願いします。

・郵便振込: 00120-2-763540

加入者名: 一般社団法人日本助産学会

通信欄に会員番号と納入年度を明記

・銀行振込: ゆうちょ銀行(9900)

〇一九(セロイチキョ)店(019)(当座)0763540

一般社団法人日本助産学会 (ジャ)ニホンゾウサシカカイ
氏名と会員番号を通知してください

学会誌投稿(共同研究者含)、学術集会演題応募(共同研究者含)、研究助成応募(研究代表者)等は、会員で該当年度の会費納入済みが条件になります。応募される場合は、お早めに会費納入をお済ませの上、お申し込み下さい。また、会費納入が遅れますと学会の諸情報の送付が滞りますのでご注意下さい。

なお、納入会費の領収書発行に関してはお手数ですが事務局宛にメールかFAXでご請求ください。

会費納入・会員番号等に関してご不明な時は、事務局までお問い合わせ下さい。

変更届について

住所等の変更に関しては、オンライン会員情報管理システム(詳細は下記)で変更手続きが出来ますのでどうぞご利用下さい。以下のホームページからID(会員番号)とパスワードをご入力の上、ログインいただき、ご希望の手続きを行ってください。

オンライン会員情報管理システム:

https://service.gakkai.ne.jp/society-member/aut_h/JAM

ID・パスワードがご不明の場合は事務局宛お問い合わせ下さい。

オンライン会員情報管理システムがご利用にならない場合は、変更届の書式は問いませんが必ず書面(E-mail・FAX・はがき等)に明記して、その都度お早めにお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

変更届は必ずお出しください。学会誌等が届かないような場合は事務局までご一報ください。

退会届について

退会届の書式は問いませんが、書面(E-mail・FAX・はがき等)でお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

*次年度から退会希望の方は、必ず1月末までに退会届け出をお願いします。退会連絡がない限り会員継続

となり、年会費をお納めいただくこととなります。特に口座引き落としご利用の方で退会希望される方はご注意ください。会費引き落とし後の退会の会費についてはお返しできません。ただし会費納入年度の学会誌等は送付しますので、十分にご理解いただきたくよろしくお願い申し上げます。

学会誌バックナンバー等の販売のお知らせ

日本助産学会誌バックナンバー第20～27巻は2,500円ただし26巻2号別冊の[エビデンスに基づく助産ガイドライン]は3,000円、28巻は3,500円(各1部)。日本助産学会暦年記録は、1部3,000円。送料は申込者負担です。

在庫に限りがありますのでご希望に添えない場合はご容赦願います。

申込み方法は、本学会ホームページから申込書をダウンロードして希望を記入の上事務局宛にE-mail添付送信するか、FAXしてください。

一般社団法人日本助産学会事務局

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-24-1 第2ユニオンビル 4F

株式会社ガリレオ 学会業務情報センター内

TEL:03-5981-9826 FAX:03-5981-9852

E-mail: g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp

ホームページ: <http://square.umin.ac.jp/jam/>

円滑な事業推進のため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。